



AAINews

人と農と環境をつなぐ技術を考える

ウガンダの太陽（その1）

ウガンダの稲作にかかわり、10年程が経つ。様々な季節を経験する中で、気になった赤道直下の国の太陽にまつわる話をいくつか紹介する。

（1）標準時に比べ、時差がある？

2007年3月に初めてウガンダに赴任した時、時差ボケで少し早起きし、ゆっくりしていた。ようやく夜が明けたと思ったら、すでに午前7時頃になっていて慌てた。ウガンダの国土は東経29-35度の範囲にあり、ウガンダが採用している標準時、UTC+3時間の基準となる東経45度線は、はるかに東にずれていることから、日の出が午前6時半から午前7時ごろになっている。実際の太陽の動きと標準時に1時間弱の時差があるといえる。UTC+2時間の基準の東経30度線はウガンダの国土の西端を通るので、そちらに合わせたほうが、生活のリズムに合うのではと、私は思うが、地元の人には不便はないのだろうし、東アフリカの隣国と時差がないことは、経済的に有益だろう。これに関連して面白く思うのは、ウガンダの昼食の時間だ。勤務する試験場の昼休みは12時半から14時だが、食堂は13時頃にならないと準備ができない。はじめは「なんて段取りが悪いのだ」と思ったが、出張で地方の食堂にいつでも13時頃にならないと準備が整わないことが多い。12時頃から開いている都会のレストランでも、来客のピークは13時過ぎの様だ。私にはウガンダの人々が、標準時の正午ではなく実際の太陽の正中（南中）に合わせて昼食をとっているように思えるが、どうだろうか。太陽の高さと食欲はあまり関係ないかもしれないが、日出の時間と朝食の時間には関係があるかもしれない。

（2）日出、日入が30分前後する。

当初は2月から6月までに出張することが多かったが、2013年に初めて10月から12月にかけて滞在した。その時期は、帰宅時の車窓の日暮れ

が日に日に早くなり、日本と同じく冬至に向けて日が短くなっていると感じた。運転手に、「日暮れが早くなっているね」と話したら、「そうだ。その代わり、夜明けが早いんだ。」というので、驚いた。調べると、下の図のようになった。カンパラの日出、日入の時間は正中（南中）の時間とともに、平行移動的に年に2回の周期で最大31分の幅で早まったり、遅くなったりする。これは地球が自転しつつ、公転していることと関係するようで、日本でも南中時間のずれとして、観察できる現象だが、緯度が高いため日長の変化の方が大きく、日出、日入時間の変化としては認識できない。日長の差のない赤道直下でこそ実感できる現象だという。このような、現象があると、ウガンダでは稲の開花時間が30分の幅で季節変動しそうだが、稲の開花は晴天か曇天かによっても1時間以上ずれることがあるので、確認は難しい。

ウガンダの10月頃に、毎日、夕陽を見ていると、つ

い、秋の深まりを感じ、しみじみするのだが、もし、早朝に散歩すると、早い夜明けに、春の兆しを感じてしま

うかもしれない。



(2018年10月小島伸幾)